

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム えんじゅの里		
所在地	〒023-0841 岩手県奥州市水沢真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の身体・精神面等の状況を把握し、他利用者様と安心して一緒に生活して頂けるよう介護・支援している。新型コロナウイルス感染症防止の為、面会制限を実施し家族様の協力を頂いている。オンライン面会では、ZOOM・LINEを取り入れ、離れて暮らす家族様と話せる環境づくりを整えている。外出が難しいので、少しでもストレス解消出来るようミニ運動会、バーベキュー等行事を行っている。また畑で野菜を作り、収穫して料理に提供している。(時期なものを味わう)朝夕はカーテンを開け、小学生の登下校を施設内から見守っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内中心部より車で5分程度で移動ができる風光明媚な田園地帯にある1ユニットのグループホームである。周囲には小学校、地区センター、大型産直(レストラン含み)が隣接しており、コロナ禍前には、児童との交流や文化祭への参加、買い物等を積極的に行っていた。3年前に職員全員で考案したチームウェイという事業所理念を基に、利用者への支援もチームで対応しており、午前中のコーヒータ임には職員2名が同席し、利用者本位のゆったりとした時間を過ごしている。また、家族との信頼関係も構築されており、家族提言から年間の事業計画を見直し、バーベキュー、お楽しみ会、秋祭り、芋の子会等の新規事業を今年度実施した。法人本部は金ヶ崎町にあるものの、地元の地域力を活かした防災対策構築や看取り体制づくりが今後期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をわかりやすく明確にしたチームウェイを見やすい場所に掲示し職員が共有することにより、利用者が「出来ること」を大切に「心に寄り添い」どうすればいいのかを日々考え「ほっ」と出来る生活が送れるように取り組んでいる。	事業所理念を3年前に職員全員で見直し、3項目に整理し、チームウェイとしてまとめている。出勤時職員が必ず確認できるよう事務室内に掲示し、毎日のケアに生かしている。また、新規職員には所長が理念を説明している。作成後に異動した職員が半数近くとなり、管理者は理念の共有と実践について、定期的に確認する機会の必要性を認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、地域との交流が出来なくなったが、地域住民の方々から野菜の差し入れや、様子伺いがある。近くの小学校から田植えや稲刈りの様子を見てくださいと声がかかり、外出し離れた所から見学し地域との交流を重ねている。+6:7E66:7	地区振興会を中心とする地域力の高い地域である。事業所周辺には、真城小学校、地区センター、産直やレストランがある。コロナ禍で例年参加していた文化祭への作品展示やボランティアによる踊り披露等は中止となっているが、今秋、小学校から「地域に感謝を届けようプロジェクト」として、寄せ書き持参の訪問や、学習発表会披露に代わるDVDの提供があった。お返しに利用者手縫いの雑巾を贈ったり、地域住民から季節毎に野菜の差し入れもあり、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けた場合は、認知症の症状やそれについての適切な支援ができるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症防止のため、2ヶ月に1回の書面会議とし利用者状況や行事写真・広報誌を作成し郵送することで活動を理解して頂いている。委員の方からできる限り地域活動の情報をご案内したいと近くの小学校の田植えの情報をいただいている。	コロナ禍前の会議では、各委員と事務局メンバーの他に、職員1名も参加し、共通認識を高める工夫をしていた。今年度は、書面会議とし事業内容等の写真を資料に添えながら委員に報告している。ヒヤリハットや事故事例をとりまとめ振り返りの機会とすることについては、12月の会議の議題とする予定と聞き取った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定の申請や介護保険制度の不明点などの相談・助言等を頂いている。新型コロナウイルス感染予防対策として、マスク・消毒液・使い捨て手袋・ペーパータオルの配布。又、抗原簡易キットも届き万が一の早期発見に務めている。	市長寿社会課職員に運営推進会議の委員をお願いしている。事業所の空き情報等の提供については、年に数回FAXで報告している。例年開催されていた集団指導や介護相談員の来訪は、コロナ禍で中止されている。要介護認定の更新申請や、利用者家族とのトラブルの相談については、市役所に対応していただいている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の3か月に1回の身体拘束委員会に参加している。情報を職員間で共有し身体拘束をしないケアに努めている。又、新規職員には採用時に身体的拘束廃止に関する指針を説明している。徘徊のある方には見守りを重視している。	法人主催の身体拘束廃止委員会には、法人の各事業所から委員が出席し、復命書で情報共有をしている。事業所内の研修は、職員会議の中で行っている。入居後数年経っても、帰宅願望があり、家族を探す利用者には、気持ちに寄り添い、気持ちの切り替えを促す等の対応が統一されている。スピーチロックは、管理者としては気になる程度の頻度ではないとしている。夜間帯のみ玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で、職員間で声掛け、ケアの方法、何が虐待に当たるのか勉強し話し合いすることにより虐待防止に努めている。利用者ひとり一人にあった声掛け等をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について社内研修に参加し、制度の理解に努め、利用者が活躍できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には入居後の生活についての不安軽減の為に本人、家族様に要望・意見を伺い十分な説明話し合いを行うことで理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口及び方法について玄関に掲示し「ご意見箱」を設置している。毎月の家族へのお便りに意見・要望の欄を設けている。家族来所時や電話の際には利用者様の状況報告し意見・要望等をお聞きしてサービスの質の向上に努めている。	「年間事業計画が毎年同じ内容」との家族意見により、今年度は行事係を中心に職員全員でアイデアを出し合い、バーベキュー、お楽しみ会、秋祭り、芋煮会等の新規事業を企画した。玄関に意見箱を置いているが、利用は少ない。家族が通院介助のために来所した際に希望や意見を伺っている。コロナ禍の面会制限対策として、ビデオ通話やブログの立ち上げ等工夫しているが、利用家族は残念ながら少数である。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝夕のミーティングや毎月の職員会議で、利用者様の様子や状態の変化等について話し合いを行い介護に反映させている。又、職員より意見・提案を出し合い、業務改善に繋げている。	朝夕のミーティングには15分程度、毎月の職員会議には1時間程度の時間をかけ、職員会議は日中から夜勤帯に変更し、多くの職員が参加できるように工夫している。コロナ禍の補助事業で購入する必要備品について、職員全員の希望や意見を集約した上で購入した。法人総務部門では、年1回、資格取得や異動希望を含めた職員アンケートを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修や講習会を通して向上心を持って働けるようにしている。各自の資格取の意向等を把握し、法人として助成制度の活用を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回CS研修会を行いケアの質の向上、各職員の意識向上を目標として日々実践している。又、社内研修の年間計画を立て、職員の知識・技術の向上に向け、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護実務者研修、初任者研修等に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。又、外部の研修に参加し他事業所と情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、何が不安で、要望は何かを事前に職員が把握していることにより、他利用者様と安心して共同生活を送ることが出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様の不安や要望等の思いを聞かせて頂き、その方にあったサービスを提供する。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、ニーズを見極め適切な対応が行えるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に掃除、洗濯干し、たたみ方、収穫等個々の利用者様が出来ることをして頂き、ともに生活し支え合う者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面談や行事参加等は、新型コロナウイルス感染症防止で制限されている為、広報誌やお手紙等で利用者様の様子を伝え、家族様との絆を大切にしながら、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で制限はあるが、外出で馴染みの場所をドライブしている。	コロナ禍での面会制限により、家族や親族、友人等馴染みの人達の来訪は激減したが、ビデオ通話等を提供し関係が途切れない工夫もしている。利用者の自宅や実家、職場等の馴染みの場所へは、車中から眺めるドライブを行っている。行きつけの床屋に出かける利用者が1名、他の利用者は来訪の床屋さんを隔月で利用している。お盆の墓参りには今年は2名の方が出かけた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し必要な時に職員がさりげなく声掛けし、その場その場の雰囲気づくりを行っている。気の合う利用者同士で会話を持つことで笑顔も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる窓口となれる様努めている。他施設に移っても、連絡、相談を取り合い、本人が望む生活を応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から本人の思いや、意向を聞いて職員で話し合い、本人に寄り添った支援をしている。	9時半過ぎからのコーヒータイムには、職員2名が同席し、ゆったりとした雰囲気の中で会話が弾み、希望や思いを確認できる場面となっている。また、夜勤帯や入浴時のマンツーマンの介助の際は、本音や訴えが出やすく、寄り添った介護を提供することも多い。意思疎通の難しい利用者には、日々のつぶやきや表情、業務日誌等から情報を得ている。把握した内容によっては家族にも報告している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様からの思いを聞き、情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を記録に残すと共に、現状の把握に努めている。定期的にあセスメントを行い、有する能力や課題について、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で話し合いを持つほか、毎日の申し送りで現状を把握している。家族様面会時は出来るだけ話を聞くようにしている。状態変化があった場合は見直しをしている。	新規利用者の介護計画の期間は3カ月、その後状態が落ち着いている場合には1年とし、中間で見直し確認をしている。毎月の職員会議時、介護支援専門員が主となり、職員と一緒に利用者毎に状態の確認をしている。コロナ禍等で、家族意向の把握が不十分で、サービス内容も事業所中心のケア内容となっており、介護支援専門員も課題と捉えている。	介護計画見直し時期には、病院受診時やオンラインも利用したかかりつけ医の意見を踏まえ、本人家族と居室担当者と一緒に、サービス担当者会議を定例で開催することを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、訴え等、本人の言葉を記録し、毎日の申し送りで利用者様の状態を把握している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	組合理容の方が訪問して髪の毛をカットしている。利用者ひとり一人の状態を確認しながら、その方にあったサービスを提供できるようにしている。又、希望される方は家族に相談して、柔軟に対応している。			

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地区センターの広報や岩手日報新聞などで、地域の情報を収集し利用者同士で話題にして楽しんでいる。職員が間に入り支援できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居後も継続し、定期受診は家族対応としている。家族様通院対応困難時には職員が対応し主治医へ様子・状態を報告して連携を図っている。	入居前から通院しているかかりつけ医への定期受診は、家族が行っている。家族の通院同行が難しい場合には、シルバー人材センターを活用する方もある。状態が不安定で受診が必要な場合には、介護支援専門員が情報を記載した書面を準備し、主治医に情報提供している。受診後、家族から受診結果や処方薬の変更の有無等を確認し、重要事項は業務日誌にも記載し職員間で共有している。義歯が破損した場合は、協力歯科医師に修繕依頼ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期に体調の変化に気づき職員間で情報を共有し、職場内の看護師に相談し、早期対応受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の生活の様子の情報を医療機関に提供している。又、入院中の情報を提供して頂き、退院後の支援に繋がられるように病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者・家族に対し、重度化した場合の対応に関する指針や見取りに関する説明をし、同意を得ている。	これまで看取りの実績は無く、重度化した場合は、入院や施設入所となっていた。看取りに関する指針を作成し、訪問診療を担っていただく医師確保等の体制が整えば、前向きに支援できる方向にある。医師確保を含めた医療連携等の体制づくりと、職員研修の計画的な実施の必要性を管理者は認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	突然の事故や急変に備え、普通救命講習で心肺蘇生法やAEDを定期的に学び訓練している。又、職員が応急手当普及員の資格を取得し、施設が救命サポートステーションになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回夜間、昼間を想定した火災避難訓練を実施している。又、停電時対応として発電機を備蓄し使用の訓練をしている。災害時に備え非常食、ガスコンロ等を備蓄している。震度5の時に職員は近隣の事業所に応援に行くことになっている。	法人の規定で、震度5以上の地震発生時は、自宅から一番近い法人事業所に駆けつける職員応援体制がある。5分程度で駆けつけ可能な事業所職員は3名いる。また、火災報知器通報が運営推進委員である消防団員の携帯にも入る。ハザードマップ上で水害の指定地域とはなっていないが、地域住民から、過去の大型台風時水没したとの情報提供もあり、隣接の大型産直施設への避難を想定している。	1ユニットの単独事業所で法人本部も隣町にあることから、地域住民や関係者と協働の災害体制を構築することを期待する。また、異動職員や新規職員を中心に、夜勤帯を意識したミニ訓練を励行されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の生活歴、性格等を理解し、不安を抱かせないよう配慮している。又、個人情報の書いている書類は、取り扱いに注意し、キャビネットで保管している。	普段から利用者の性格や生活歴に合せた声かけをし、場合によっては方言も駆使し、プライドを傷つけないような対応に努めている。職員全体で、利用者の女性入居者8名に対し、男性職員が3名となっており、入浴等異性介助に「恥ずかしい」気持ちを抱く場合には、交代している。食後の片付けや洗濯物たみ等の作業に積極的な利用者が多く、意欲を尊重している。居室入口に、プライバシー確保用の暖簾を下げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望等を理解し、日常生活の中で自己決定がしやすい環境、サポートを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご自宅にいるように安心して過ごせるよう、ご自身が使っていたダンス等を持っていただき、穏やかに自分のペースで生活出来るようサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時期にあった服装を一緒になって選んでいる。又、その人らしい髪形になるよう、組合理容の方と相談している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を使い、調理、提供している。ひとり一人の好き嫌いを把握し、食べれないメニューの時は代替し、美味しく食べて頂けるよう努めている。	季節毎の行事食や、利用者の誕生日には誕生者の食べたいメニュー(寿司、刺身等)を全員で食べている。事業所の畑からは、玉ねぎ(500本)、胡瓜、ナス、トマト、オクラ、枝豆、カボチャ等の野菜が収穫され、食材として活用している。秋の芋の子会には皮むきを担当していただき、玉ねぎ収穫作業を職員と一緒に2日ばかりで行った。ドライブ時のおやつ(鯛焼きやソフトクリーム等)購入は定番の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量を確認しながら料理の提供をしている。管理表も活用しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自室にて歯磨きをするように声掛けを行っている。就寝時は、洗浄剤を使用し、入れ歯の清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のトイレのタイミングに合わせ、声掛けをし、排泄の失敗を減らせている。自分でトイレに行けない利用者には時間で声掛けをし、誘導している。	身体状態が自立している利用者が多く、昼夜共自分でトイレに行ける利用者は8名で、必要に応じ、見守りやふき取り、衣類の補正等の支援をしている。声がけのタイミングは排泄チェック表を確認したり、食事やティータイム前後に行っている。夜間にポータブルトイレを利用している利用者は2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、便秘にならないようしている。野菜を多くとってもらっている。下剤の服用管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用しリラックスの出来る空間を作っている。ゆっくり入浴できるよう、温度に注意をしている。	入浴は、週3回は利用出来るように日曜以外の午後に提供されている。嫌がる利用者には、作業誘導等で上手に誘い、また頻回に入りたい希望者には希望を叶えている。浴槽では好みの湯かけんに留意している。職員が童謡や民謡を唄いだすと、一緒に唄いだす利用者もいる。ゆず湯や菖蒲湯も行い、季節感を大事にしている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに配慮しながら、無理のない範囲で安心して過ごせるよう心がけている。シーツ類はこまめに交換し、清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無い様ダブルチェックし、変更時は申し送りで情報の共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた軽作業や、職員のお手伝いをお願いしやっています。各行事等のイベントを行い楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止に努める。車から降りず、近場でのドライブや施設の周りを散歩している。天候や、体調に配慮している。	感染防止に留意しながら、昨年より外出機会は多くしている。外出前には、先ず利用者の希望を確認している。買物同行や外食は制限しているものの、春の桜や秋の紅葉鑑賞で胆沢ダム方面に出かけ、落成した新小谷木橋にも出かけた。日常的には、事業所周围の散歩に出かけ、近隣の小学校の田植えや稲刈り等の見学も行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金の管理をしている方もいる。施設で扱っている方もいる。必要なもの、欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様が自由に連絡が出来る環境をつくらせている。テレビ電話も出来るようLINE・ZOOMを取り入れています。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム えんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りをかざり、各行事の写真を飾ることで季節感を感じられる。温度調整により居心地のよい空間を作っている。出来るだけ家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。	ホールには、感染防止のため3つのテーブルを横並びとし、すっきりと整理されている。調査時確認した写真では採光も良好で、真城小学校の児童が持参した、中央のアマビエ絵周囲にメッセージが書かれた模造紙が飾られていた。談話コーナー南側には外気浴ができるテラスもあり、今年はバーベキューや芋煮会を楽しんだ。冬期間には床暖房をいれるとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士が気軽に会話できるように配慮している。個々が思い思いに過ごせるよう整備している。(新聞、雑誌等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様のご協力のもと、本人のなじんでの物を置くことで落ち着いた環境を作り出している。	入口横には、洗面台と縦長のクローゼットが配置されベッド(介護用7台、家具調2台)エアコンが備え付けられている。自宅から衣装ケースや鏡、位牌を持参されている方もあり、テレビは4名の方が持ち込んでいる。ホール同様床暖房仕様となっている。日中主に居室で過ごしている方が1名いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な空間等が無いように配慮をしている。安全に一人でトイレ等に行けるよう、手すりを整備し、不安なく歩行が出来るようにしている。		